

「戦後史は一体なにであったのか、なにではなかったのか」  
について、あなた自身の判断を煮つめてほしい——むのたけじ



不屈のジャーナリスト・むのたけじが  
遺した、幻の新聞『週刊たいまつ』を  
ついに復刻！

戦後日本の激動を直視しつつ、農村問題、利権政治、  
出稼ぎ、貧困、サークル活動など身近な暮らしに根ざ  
して、秋田県横手の一隅から、日本と世界を射照らし  
た炎、たいまつ。  
ジャーナリズム・メディア研究、戦後文化、市民運動  
史を知る生きた資料が、ここにある——。

発行責任者

むのたけじ

# 週刊 たいまつ

復刻版 全5巻

全5巻

●底本——『週刊たいまつ』第1号〜第780号  
(1948年2月2日付〜1978年1月30日付)

発行責任者 むのたけじ・たいまつ新聞社発行

B4判・上製クロス装・総約1,600頁

●体裁—— 門奈直樹(立教大学名誉教授) 小森陽一(東京大学教授)

●推薦—— 本体90,000円+税(各巻18,000円+税)

●揃定価—— ISBN 978-4-8350-8267-7



本紙復刻にあたっては、むのたけじ氏より横手市立横手図書館に寄贈された  
資料を元に、同図書館が収集・修正を加えたデジタルデータを使用している。

不二出版

# 小さな出来事の大きな意味を考える——『週刊たいまつ』復刻への期待

門奈直樹 (立教大学名誉教授)

敗戦直後、東京、名古屋、京都、そして大阪などで戦争責任を感じとった新興新聞が誕生した。しかし、戦時中の翼賛体制による新聞の統廃合政策で肥大化した既成新聞は戦後も生き残った。新興紙は既成紙の市場を崩せず、数年後には消えた。

『朝日新聞』を退社して、名古屋の『中京新聞』の創刊に関わったむのたけじは郷里の秋田に帰り、市井のジャーナリストとして再出発した。今度は限られた領域の中で同時代の事象を記録する個人新聞を発行した。それが一九四八年発行の『週刊たいまつ』だった。

同紙は題字の脇に「炬火」欄を設けて、温もりのある社会批判を行った。「夜の終わりに朝が来る」ことを信じ、論争の現場に身をさらした魯迅の影響を受けた欄だった。

むのは地域住民の生活を自身の生きる足場にして、その日その時の住民たちとのつき合い方を模索するジャーナリズム活動を展開した。

むのが一躍知れわたったのは、同紙掲載の諸論説や記事が一九六三年、むの仕事を一時手伝った、大野進経営の広告会社・企画通信社から『たいまつ十六年』のタイトルで出版され、翌年、理論社から再刊されたことによる。多くの紙誌類が「たった一人で作る新聞」「妻と二人で灯した『たいまつ』」「自立者の精神の軌跡」などと評した。高度経済成長期の隙間から時代傾向に抵抗していた全国のミニコミ紙に勇気を与えた。

## 推薦します

### 『週刊たいまつ』というジャーナリズム

むのたけじさんは「反骨のジャーナリスト」と言われることを、強く拒絶していた。なぜなら「反骨はジャーナリズムの基本性質」(『99歳一日一言』岩波新書、二〇一三年)だからだ。なぜこのような形容矛盾が生じるかと言えば、「日本のジャーナリズムが反骨を失ってしまったからだ」とむのさんは断言する。辞書で調べてみると「反骨」とは、「容易に人に従わない気骨。権力に抵抗する気骨」と説明されている。そう言われても、「気骨」という言葉がわからないと、全体として意味を把握できない。「気骨」とは、自分自身の「信念に忠実で容易に人の意に屈しない意気。気概」。むのさんは、「自分自身の信念に忠実で容易に人の意に屈しない意気」で「権力に抵抗する」「ジャーナリスト」だったのである。

ジャーナリストは、決定的な局面において、(それしかない)言葉を発しなければならぬ。むのさんは二〇一一年の三・一一についてこう表現していた。「かつてない天災がひどい人災と共に襲ってきて、一万五〇〇人以上のいのちが奪われてしまった」(『希望は絶望のど真ん中に』岩波新書、二〇一二年)と。この状況に対する世界の反応については、「日本列島の一隅に発生した出来事と人々の動きが引き金となって、人々の目ざめが誘発され」「人々の連帯＝人類の友情を開墾する作業が、地上の至る所で始まった」(同前)とも。

『週刊たいまつ』は、戦争責任を総括できなかった新聞社を退社したむのさんが、一九四八年に横手市で創刊した地域新聞だ。「たいまつ」は「自分の身を燃やして、この時世に自分たちの朝を生む」(同前)のである。この週刊新聞は、むのさんの思想全体を表現し、現代の市民運動の思想にたらなる活字媒体である。

(こもり・よういち)

### 桐生悠々 主宰

#### 他山の石 全4巻・別冊1

戦前期の反骨のジャーナリスト、桐生悠々が言論弾圧の時局に抗しつつ発刊した個人雑誌、『他山の石』——『信濃毎日新聞』主筆を追われた悠々が、1930年代という危機的状況に警鐘を鳴らすべく、度重なる発禁処分を乗り越えて発刊した『他山の石』を、その前身誌「名古屋読書会報告」を含めて復刻・刊行。日本の良心を伝える戦時下ジャーナリズム、近現代史研究資料の決定版である。



不安と希望が入り混じる戦後の大阪に、流星のようにきらめいた『流星号』、『夕刊新大阪』は、大新聞に先駆けて投書欄、学芸欄、スポーツ欄の充実をはかり、文化新聞としての矜持を示した。武田麟太郎、石川達三、大佛次郎、田村泰次郎の連載小説を次々に掲載、左右に長い「横長新聞」と呼ばれて大阪市民に親しまれた本紙は、戦後文化、占領期文学、近現代史研究者にとって必見の資料である。創刊から全盛期に至る第1419号までを復刻。

#### 夕刊新大阪

〔昭和21年2月〜24年12月〕  
全10巻・別冊1

#### 東北文学 全8巻・別冊1

敗戦後まもない1946年に発刊、武者小路実篤が巻頭を飾り、好編「たづねびと」を残した太宰治を筆頭に、石坂洋次郎、壺井栄、室生犀星、草野心平らを擁して「文芸復興」を志した『東北文学』。「新しい文学」を志向した本誌は、東北における戦後文学の原点を、いまも生々しく伝えてやまない。



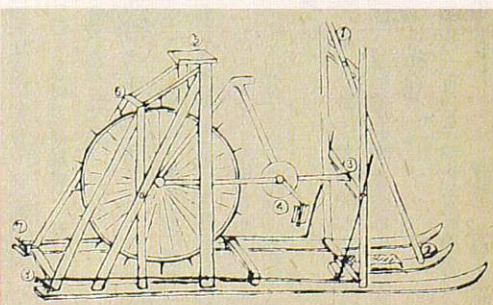
#### 大宅壮一 主宰 人物評論 全5巻・別冊1

「この密閉された室内に、涼風をもたらすものは誰ぞ!」(大宅壮一)。本誌は、言論・表現の自由が封殺されてゆく時代において、ジャーナリスト大宅の旺盛な批評精神を体言する、人物・時事評論の傑作である。わずか一年余の短命とはいえ、芥川龍之介、尾崎士郎ら著名な作家が評者となり、「人物の評論」というかたちで政治、文学、風俗を批評した本誌は、大宅の若さゆえの野生味あふれたエネルギーが満ち溢れていた。ジャーナリズム・メディア研究に欠かすことのできない基礎資料、復刻版。



●別冊定価…本体1,000円+税  
●第1回記本 全4巻・別冊(1946年1月〜1948年1月)  
ISBN 978-4-8350-7944-8  
本体73,000円+税  
●第2回記本 全4巻(1948年2月〜1950年5月)  
ISBN 978-4-8350-7939-4 (2009年6月刊行)  
ISBN 978-4-8350-7945-5 (2017年1月刊行)  
本体72,000円+税

●別冊定価…本体1,000円+税  
●第1回記本 全5巻・別冊(1963年3月〜1964年3月)  
ISBN 978-4-8350-0310-8  
●第2回記本 全5巻・別冊(1964年3月〜1969年12月)  
ISBN 978-4-8350-0316-0  
刊行…1966年11月



「たいまつ」は、秋田という風土に根差す記事を積極的に掲載。上は17歳の少年が考案した「雪上自転車」図案。(1950年1月21日付より)



魯迅の影響を強く受けたむのは、国交正常化の訪中に加わるなど、中国への関心が強かった。「たいまつ」紙面にも、中国の木刻画が数年にわたって掲載された。(1949年10月22日付より)

## 関連図書







# むのたけじ 週刊たいまつ

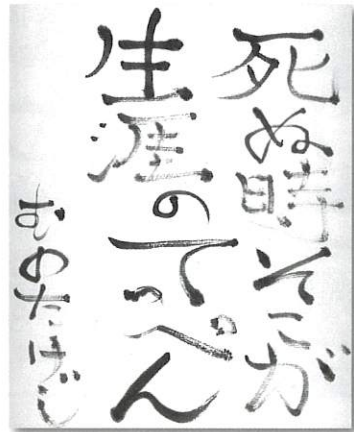
全5巻

〔復刻版〕

発行責任者

『週刊たいまつ』とは

『週刊たいまつ』は、終戦を期に朝日新聞を退社したむのたけじが秋田県に帰郷、主幹として横手市で創刊した週刊新聞である。1948年2月2日に、タブロイド判2頁、1部3円で創刊。発行部数は2,000部だった。「農業問題、ボス退治…アジア情勢の解説に力を入れ、青年団体や文化サークルとの接触につとめた」という。1978年の第780号をもって休刊。むのはその後、積極的な講演、著述活動を通じて反戦を訴え、2016年に101歳で亡くなるまで、不屈のジャーナリストとして活躍した。



大きな国際的事件でも自分の身の小さな事柄とどうつながっているのか、いないか、自分の中の小さいと見える出来事がどんな時代的意義をもち、国全体あるいは世界全体の問題とどうつながっているのか、いないか、こうした吟味が必要である――。

（たいまつ十六年より）

底本

『週刊たいまつ』第1号～第780号  
（1948年2月2日付～1978年1月30日付）

発行責任者 むのたけじ・たいまつ新聞社発行

B4判・上製クロス装・総約1,600頁

本体90,000円＋税（各巻本体18,000円＋税）

ISBN978-4-8350-8267-7

原紙協力 横手市立横手図書館、むのたけじ 武野大策

推薦 門奈直樹（立教大学名誉教授）・小森陽一（東京大学教授）

刊行 2018年12月・全5巻同時刊行

ご案内先 メディア・ジャーナリズム・地域史等の研究者／大学・公共図書館

●巻構成

巻数	原本文数	発行年月日	ISBN(978-4)	定価
第1巻	第一号～第一二五号	一九四八年二月一日～ 五〇年二月三日	83501826814	本体18,000円 ＋税
第2巻	第一三六号～第二二七号	一九五一年一月一日～ 五三年二月一九日	83501826911	
第3巻	第二二七号～第四四五号	一九五四年一月一日～ 五七年二月二五日	83501827017	
第4巻	第四四六号～第六〇九号	一九五八年一月一日～ 六一年二月二〇日	83500827114	
第5巻	第六一〇号～第七八〇号	一九六二年一月一日～ 七八年一月三〇日	83501827211	

表示価格はすべて税別

不二出版

T112-0005

東京都文京区水道2-10-10

TEL 03-5981-6704

FAX 03-5981-6705

振替 001600294084